

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 23 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530822

研究課題名（和文）非英語圏諸国の大学における英語による学位プログラムの開発に関する比較研究

研究課題名（英文）The development of English-taught degree programs in non-English speaking countries in the comparative perspective

研究代表者

黄 福涛 (Futao Huang)

広島大学・高等教育研究開発センター・教授

研究者番号：60335693

研究成果の概要（和文）：

まず、調査対象の一部の国々では、英語による学位プログラムの実施は最初の時点では、主に研究型大学を中心に進められていた、今日は、一部の地方大学や非伝統大学セクターにおいても、それらの開設が急速に拡大されてきた。次に、国により、英語によるプログラムを提供するには、その背景や、目的、実施方法などについて相当な違いがみられる。最後に、多くの国々において、英語による学位プログラムや授業の実施は多くの問題を抱えている。

研究成果の概要（英文）：

First, the provision of English-taught degree programs has been expanded from the traditional elite or research-intensive universities to local institutions and even to non-university sectors in several countries. Second, there existed considerable varieties in the context, purposes, educational programs and medium of instruction of developing these degree programs depending on different countries. Finally, these countries were facing various issues and challenges while these degree programs were implemented.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：高等教育

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：国際化 英語によるプログラム 比較研究

1. 研究開始当初の背景

経済をはじめとするグローバル化の急速な進展に伴い、非英語圏国家の大学においては、グローバル化の影響に適応するように教育内容を見直す改革が行われている。その中で特に、英語による学位プログラム

(English-Language-Taught Degree Programs, ELTPs)の開発の重要性が強調されている。たとえば、1980年代後期から、ヨーロッパにおいて、エラスムス計画の実施に伴って、英語による学位プログラムや授業の開発が盛んになってきている。また、アジアの中国や韓

国などの非英語圏諸国も、英語によるプログラムや授業の実施に積極的に取り組んでいる。日本の「留学生 30 万人計画」骨子（平成 20 年 7 月 29 日）においても、2020 年を目途に留学生 30 万人を受け入れることを目指し、留学生にとって魅力ある大学になるように、英語のみで学位取得が可能なプログラムを拡充する施策が新たに打ち出された。

このような背景のもとで、近年、英語によるプログラムや授業科目の提供に関する研究が数多く行われてきた。特定の国における英語によるプログラムや授業の実施に関する政策および機関レベルにおける実態や課題を取り上げた先行研究がある一方で、大規模の国際的調査を通して特定の地域における英語による学位プログラムの実態や特徴などが明らかにされたものも挙げられる。たとえば、1993 年に設立された学術協力連合会 (Academic Cooperation Association, ACA) は、2002 年と 2007 年の二回にわたって、ヨーロッパの 20 以上の国々の大学を対象に、英語によるプログラム (English-Taught Programs) の実態、実施機関の背景、プログラムの特徴、国際化における位置づけなどについてアンケート調査を実施した。そして、最近、一部の研究者は、主に事例研究を通して英語による授業評価や英語によるプログラムと授業の効果に対する評価などについて取り上げた。しかし、国際的・比較的、特に実証的視点から日本や、中国、韓国、イタリアなどの一部の国における教員と学生へのアンケート調査および現場でのインタビューの結果分析に基づき、それらの国における英語によるプログラムや授業科目の提供に関する課題や今後のあり方などに関する議論は決して十分ではない。

2. 研究の目的

本研究では、非英語圏諸国における英語による学位プログラムの開発に関する比較研究を通じて、同じ非英語国としての日本において英語のみによる学位取得の進むべき方向性および具体的な改革方策を示唆することを目的としている。

3. 研究の方法

まず、日本や関連諸外国でこれまでに蓄積されてきた英語による学位プログラムの開発に関する研究成果の収集と分析を行った。次に、これまでの英語、や日本語および中国語による学位プログラムの開発に関する仮説、理論、その分類法などの分析をした。そのうえで、関連諸国の関連データを収集すると同時に、アンケート調査や、インタビューおよび訪問調査などの手法により、欧米先進国のみならず、発展途上国の事例も研究した。特に同様な調査票とインタビューガイドラ

インに基づき、日本、中国、韓国、イタリアとフィンランドにおける大学教員を対象に実施された調査を通じて、同じ非英語圏国における英語による学位プログラムの提供に関する現状、問題点や解決策などについて考察した。

4. 研究成果

本研究に関する主な知見は以下の通りである。

第一に、研究対象国では英語による学位プログラムの開発・提供は高等教育の国際化のなかの重要な位置づけとなっており、特にオランダや中国の一部の国々において個々の教育機関が英語による学位プログラムの開発や拡大にさらに大きな役割を果たすようになった。

第二に、一部の国々では、英語による学位プログラムの実施は最初の時点では、主に研究型大学を中心に進められていたが、今日は、一部の地方大学や非伝統大学セクターにおいても、それらのプログラムや授業科目などの開設が急速に拡大されてきた。

第三に、国々により、英語による学位プログラムの開発と提供には、その背景や、目的、実施方法などについて相当な違いがみられる。たとえば、オランダやドイツなどのヨーロッパの一部の国において、英語による学位プログラムや授業の開設に関する重要な目的は「国際学生や留学生の獲得」を狙っているのに対して、中国では、それは「自国の学生の英語力の向上」や「自国学生による国際化と異文化への感覚の養成」を目指し、国際的な人材の育成を実現する重要な手段の 1 つとしても行われていることである。

第四に、英語によるプログラムや授業科目などの提供には、国や機関レベルのみならず、同じ機関における部局間でも多少違いは見られる。たとえば、中国の研究大学における英語による授業の開設をめぐる問題点については、調査対象となった学生の所属部局別にみると、七割以上の人社系と学際的分野の学生は「自分の英語力の向上が必要」と回答しており、この割合は理工系の学生より約 1 割高かった。一方、「教育効果がよくない」については、理工系の学生で「はい」と回答した者の割合は人社系、特に学際的分野の学生よりも高かった。このように、異なる分野の学生間で共通な課題もあるが、分野間の差異も存在している。したがって、今後、より効果的に英語による授業を推進するためには、部局間の違いも考慮に入れ、学生の多様なニーズに対応した柔軟な授業を開発することが不可欠である。

第五に、最後に、多くの国々において、英語による学位プログラムや授業の実施は多くの問題を抱えており、そのうち、特に教員

と学生両方の英語力の低下や担当教員の負担などの問題がある。また、これらの教育効果に対して如何に評価し、また問題点を改善できるかについて数多くの課題を直面している。

最後に、今後の研究課題として、より幅広い教員や学生集団を対象に、機関別や地域別、学歴別などの調査とインタビューを行う必要があると思われる。また、日本も含め複数の非英語圏諸国において同様な調査やインタビューを行い、国際的・比較的な視点から、英語によるプログラムや授業の実態、目的、問題点、対策などについて研究を実施することが必要である。こうした調査を踏まえた上で、現在日本の大学において進行している英語による学位プログラムの実施に関する課題を解明し、その政策的示唆を提示し得るであろう。なかでも特に、機関レベルでの進め方に関して示唆を得ることが重要であろう。

以上の研究に基づいて、関係諸国における英語による学位プログラムの特徴と問題点を明らかにしたうえで、特に日本における英語による学位プログラムの開設に関する政策的提言を行なった一方で、機関レベルにおける担当教員の英語力の問題や、受講生の意識の変化などの課題も取り上げた。

三年間における研究成果について、国際的ジャーナルや日本国内の査読付学術刊行物に論文を掲載したと同時に、日本国内学会および国際会議において研究発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 1 件)

1. Futao Huang, The future of regionalization of higher education in East Asia, *The next 25 years of the internationalization of higher education*, *EAIH book*, 査読有り、2013(印刷中)
2. 黄 福涛、「中国の研究大学における英語による授業の開設—学生への調査とインタビューの分析結果を手がかりとして—」『大学論集』、査読有、第44集、2013年、243—254頁。
3. 黄 福涛、「英語による学位プログラムの開発に関する比較研究—中国、日本、イタリヤの事例研究を中心に—」『KSU 高等教育研究』、査読なし、第2号、2013年、93—99頁。
4. Futao Huang, Higher Education from Massification to Universal Access: A perspective from Japan, *Higher Education*, 査読有、63 (2), 2012, pp. 257-270.

5. Futao Huang, Growth of English-taught programs and course in East Asia, *ACA Newsletter Education Europe*, 査読なし、No. 139, November 2012.
6. 黄 福涛、「大学改革の現在—中国における英語とバイリンガルプログラムを中心に—」『KSU 高等教育研究』、査読なし、第1号、2012年、59—66頁。
7. 黄 福涛、「専門教育に関する歴史的・比較的研究—理念、制度、カリキュラムを中心に—」『大学論集』、査読有、第43集、2012年、83—98頁。
8. 黄 福涛、「コンピテンス教育に関する歴史的・比較的研究」『大学論集』、査読有、第42集、2011年、1—18頁。
[学会発表] (計 13 件)
1. Futao Huang, Study of the Young Academics in Higher Education Institutions in the Comparative and Empirical Perspectives (招待講演), International conference organized by Global Young Academy, 2013年5月13日, ハノーバー、ドイツ。
2. 黄 福涛, 非英語圏諸国の大学における英語による学位プログラムの開発に関する比較研究、日本教育社会学会第64回大会、2012年10月27日、同志社大学。
3. Futao Huang, English-medium teaching in Japan, The Higher Education Policy & research Institution and the KB 21 Project Group (招待講演), 2012年10月5日, Korean University, 韓国。
4. Futao Huang, University Curricular Reforms in Japan, International conference organized by the National Academy for Educational Research (招待講演), 2012年10月19日, National Academy for Educational Research, 台湾。
5. 黄 福涛, 大学治理—問題、趨勢と対策、中国高教年会高等教育学專業委員会2012年大会(招待講演)、2012年8月11日、吉林大学、中国。
6. Futao Huang, A Comparative Study of the Internationalization of Higher Education in Japan and Singapore, OECD & Asia Development Bank Institute (招待講演), 2012年1月18日, ニューデリー、インド。
7. 黄 福涛, 高等院校的專業教育變革、中国高教学会高等教育学專業委員会2011年大会、2011年9月18日、新疆石河子大学、中国。
8. 黄 福涛, A Comparative Study of Zhongwai Hezuo Banxue, International conference on Transnational Higher Education: Policy, management and

- development (招待講演), 2011年6月20日、厦門大学、中国。
9. Futao Huang, The Diversification of Higher Education in the Comparative Study, UNESCO International Workshop (招待講演)、2011年10月14日、Dubrovnik, クロアチア。
 10. Futao Huang, The Internationalization of the Academic Profession: Changes and issues, AC International Forum 2010 (招待講演), 2010年10月19日, 上海市 Regal International East Asia Hotel, 中国。
 11. 黄 福涛, 世界高等教育办学理念的形成及其变化、中国高教学会2010年大会 (招待講演)、2010年10月30日、南京市江蘇省會議センター、中国。
 12. Futao Huang, Building up Quality Assurance Systems of Higher Education: A Comparative Perspective, The 6th International Conference on Scientometrics and Evaluation on University (招待講演), 2010年12月5日, 武漢大学、中国。
 13. 黄 福涛, 国立大学法人改革一目標と効果一、中国高教学会高等教育学專業委員會2010年大会 (招待講演)、2010年12月13日、上海師範大学、中国。

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黄 福涛 (Futao Huang)

広島大学・高等教育研究開発センター・教授

研究者番号：60335693

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：